

片瀬だより

令和5年12月25日 発行

編集・発行



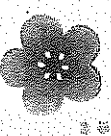
片瀬だより編集委員会

藤沢市片瀬3丁目9番6号






電話 29-7171

FAX 25-8907

片瀬公民館(本館)

<p>1 月</p> 	<p>17日(水) 楽しく子育て⑨「保育士さんとあそぼ!~工作しよう~」 20日(土) おもちゃの病院 29日(月) 知笑の輪倶楽部 第5回 映画「先生と迷い猫」</p>
<p>2 月</p> 	<p>3日(土) 共生社会講演会(予定) 「がんになっても 暮らしやすさを求めて ~当事者も 寄り添う人も 同じ世界で前を向く~(仮称)」 10日(土) Katase 男(DAN) dismへの道(予定) 「町中華の味に挑戦!(仮称)」 17日(土) おもちゃの病院 21日(水) 楽しく子育て⑩「親子でリズム体操」</p>
<p>3 月</p> 	<p>4日(月) 知笑の輪倶楽部 第6回「ふるさと片瀬 藤沢市指定重要文化財(無形民俗文化財)江の島 天王祭」 7日(木) 子育て講演会(予定) 「子どもの力を引き出す言葉がけ3つの秘訣!(仮称)」 16日(土) おもちゃの病院</p>

片瀬しおさいセンター

<p>1 月</p> 	<p>9日(火) ようこそ 小さな空間 アンソレイユ 18日(木) スマホお助け隊 21日(日) バドミントン・卓球開放</p> 
<p>2 月</p> 	<p>5日(月) ようこそ 小さな空間 アンソレイユ 15日(木) スマホお助け隊</p> 
<p>3 月</p> 	<p>2日(土) バドミントン・卓球開放 4日(月) ようこそ 小さな空間 アンソレイユ 5日(火) 赤ちゃんとママのふれ愛タイム~ピラティス~ 21日(木) スマホお助け隊</p>

公民館事業のお知らせ

◎申込は、すべて本館へ電話・来館(平日のみ午前8時30分~午後5時まで)または電子申請で
 申込など、詳細は広報・地域回覧・ホームページをご確認ください。

第44回 片瀬地区ふれあいまつり

10月28日(土)・29日(日)の2日間にわたって行われた「第44回片瀬地区ふれあいまつり」。

4年ぶりに模擬店も出店し、サークル発表・講演会・ワークショップ・eスポーツ・片瀬小学校児童と片瀬中学校の生徒さんによる作品展示や発表など、盛大に行うことができました。

今年度は発表される出演団体も多く模擬店会場も地域団体による食販やゲームなどあり、たくさんの方々にご来場いただいたいて、無事に幕を閉じることができました。

ご協力いただいた地域団体の皆様、ご出演ならびにお手伝いいただきましたサークルの皆様、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

講演会 「みどりらんまん」

江の島の植物について

講師 川地啓文氏

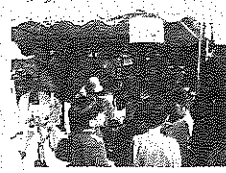
「片瀬地区ふれあいまつり」初日に片瀬公民館と片瀬だより共催による「みどりらんまん」江の島の植物について」という講演会が行われました。

講師は藤沢市文化財保護委員の川地啓文さんです。川地さんは教育文化センター発行の「ふじさわの大地」「みどりの江の島」「藤沢の島」等の編集に携わり、藤沢、江の島地区の自然に精通されています。

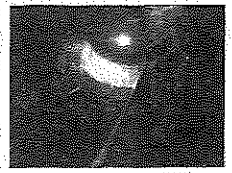
江の島が一年中みずみずしい緑色の植物



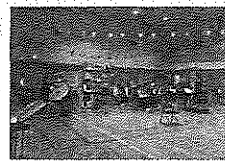
しおさいセンターの模擬店もにぎわいました



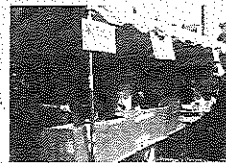
本館の模擬店会場は常に、にぎわっていました



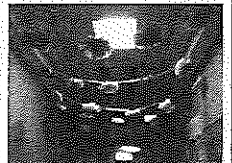
本館の装飾テーマは「海とブルメリア(花)」



片瀬中学校の吹奏楽もありました



4年ぶりに焼きそばも実演販売されました

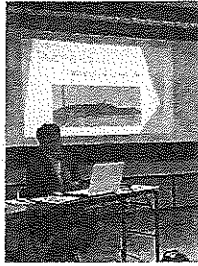


しおさい荘のみなさんの手作りのお花も

で覆われているのは、人の手が加わっていない神社が多いことや、温暖で湿潤な気候であるためだそうです。森林区分では常緑照葉樹林にあたります。

その他、聖天島のこと、雑草について、江の島に東洋初の臨海実験所を開いたモリス博士と牧野富太郎博士との繋がりと興味深い話が続きました。

来場した方々が、熱心にメモを取っていらつしやる姿が印象的でした。



片瀬の老舗を訪ねて①

「富士見亭」

今回は、江の島、奥津宮近くの富士見亭さんをお訪ねし、三代目店主の堀江久次さんにお話をうかがいました。

東には相模湾、西には雄大な富士山を臨む地にあるお店は、明治初期から同じ場所で営業しているそうです。のんびりしていた昔は食事と共に景色を何時間も眺め、お店の方々とおしゃべりを楽しむお客さんも多くいらしたそうです。

今は予約のお客が増え、外国からの観光客が7割近くになって、以前のような雰囲気は少なくなつたようです。

海外からのお客様が、お刺身を喜ばれるとか、丼ものを好まれると聞き、意外な気がしましたが、肉を食べない習慣を持つお客様に喜ばれているとのこと

です。新鮮なお魚の美味しさや熱々のご飯と上に載せた具が醸し出す美味しさは万国共通なのでしょう。名物のサザエをのせた江ノ島丼は戦後から始まつたそうです。

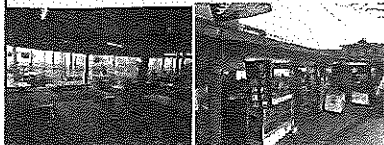
久次さんは長年、江の島弁天会や

江の島・片瀬飲食業組合の会長を務め、島や片瀬地区の発展に尽くしてこられました。お役は退かれましたが、今のお気持ちを伺うと「今は島外から来た方が営業しているお店も増えてきましたが、狭い土地だから協力しあい、仲良く仕事を続けていくのが大事。そして自然を壊さず昔ながらの江の島の風景を守っていきたいですね」とのお話でした。

相模湾を眼下に、富士箱根をかなたに眺める絶景を見ながらの暮らしで、毎日の日の出や、富士山や、海の様子に毎日感動していますか?という質問に「いやいや、風だね。風が一番気になります。朝は今日吹く風。夕日を見ては明日の天気と風を考えると。島が「一番怖い」とお答え頂きました。島の暮らしの大変さを垣間見た気がしました。



徳江久次さん、秀子さん



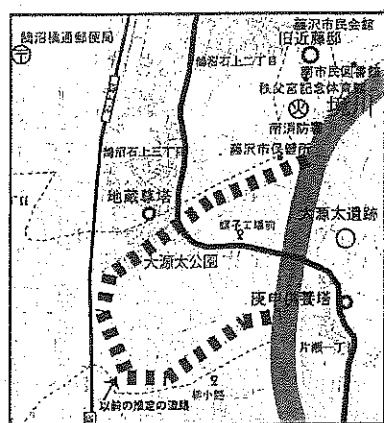
昔ながらの店構えが迎えてくれます 海が一望できる店内

江の島道をめぐる④

「片瀬大源太遺跡」

江の島道を藤沢駅から南に下つてきて、大源太公園を過ぎたあたりで、東に進む、再び国道467号線を渡ると境川が見えてきます。さらに進むと左側にミネベアミツミ株式会社(旧ミネベア株式会社)の正門が見えてきます。ミネベアミツミ(株)正門脇には享保15(1730)年銘の庚申供養塔が建っています。こちらには「従是左ふじさ王道/従是右か満くら道」と刻まれており、道標も兼ねていたようです。

現在の新林公園に向かう道は新道で、旧道はミネベアミツミ(株)の敷地内を通っていました。『総検校杉山和一建立の江ノ島道道標』石野瑛(昭和12年)によると、俗称「わかされ」とよばれていたこの辺りに杉山和一建立の道標と類似するものがあり、表面には「ゑのしま道」、裏面には「右かまくら道」



左ふじ澤道」と刻まれていたようですが、現在はありません。

さて、この工場一帯は実は片瀬大源太遺跡と呼ばれる縄文時代から平安時代にかけての遺跡が見つかっています。もともとこの辺りには「スクモ塚」と呼ばれた高さ10mほどの古墳があり、昭和7(1932)年の古墳の南斜面を工事拡張のため切り崩したところ、直刀・剣・鎌などの鉄製品が出土したそうです。その後、境川河川改修工事や工場改築工事等にもなつて複数回の発掘調査が行われていました。

縄文時代については土器片などが見つかり、縄文時代からこの辺りが生活圏であったことがうかがえます。また、弥生時代については、当時の住居跡かと想像できる遺構、墓と考えられる方形周溝墓などとともに多くの出土品が見つかり、この砂丘地

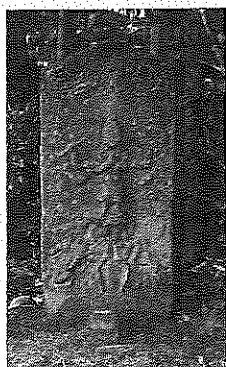
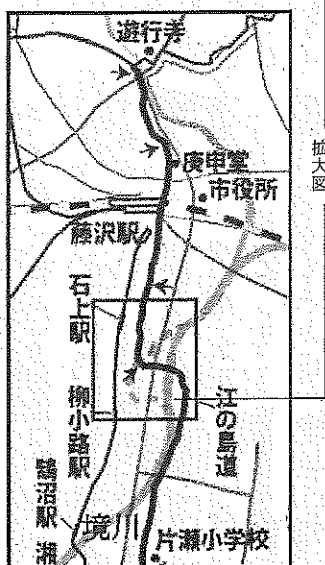
が弥生時代には生活の場としての集落であったことがうかがえます。

古墳時代については、環状の溝状遺構が見つかり、埴輪片も遺跡内から複数みつかることから、円墳ではないかと考えられます。

奈良時代から平安については、30数軒の竪穴住居などとともに大量の土器などの出土品が見つかり、古代の大集落がこの地に営まれていたのは明らかであります。

この東側には新林公園があります。ここから南側にかけての片瀬山腹は横穴墓と呼ばれる横穴式の墓が50基近く見つかり、大源太の集落と密接な関係にある墓地ではないかと考えられるようです。

片瀬は本当に古くから人々の営みが刻まれた地ですね。今回は『片瀬大源太遺跡発掘調査報告書(ミネベア藤沢製作所内)』大源太遺跡発掘調査団1997年を参考にいたしました。



大源太庚申塔

「私の散歩道」

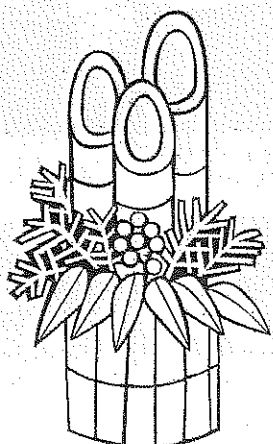
私の散歩コースで、好きなコースの1つは、片瀬古道沿いから片瀬海岸に抜けるコースです。

お気に入りの古刹を訪ね、心を清めてからの海の潮の香りは至福のひとつとします。

寄せる大波、かえす山波、遠くにたたずむ白い湘南港の灯台。時の経過を忘れさせてくれます。

気候温暖なこの地に住む幸福を散歩の度につくづく感じます。

足腰がしつかりしている限り、片瀬の良さをまだまだ味わわせて頂きたいと思っています。



ふるさと片瀬、今昔あれこれ⑩

「緑と太陽と潮風の町」の四季

中村 喬

いま、我が藤沢市は「キエンとするまち。藤沢」のもとで発展を続けている。

かつて、まちづくりのビジョンとして「みどり」と太陽と潮風のまち藤沢が掲げられたことがあった。戦後の混乱の中で育った昭和の子どもたちにとつてこの言葉は実感を持つて聞くことができた。

また高層の建物がなかった戦後、春先になると縁側の日向で内職に励む母の姿があった。江の島土産の貝細工の帆掛け舟をつくっていたのだ。湘南の日差しがやわらかく、優しかった。

夏は潮風を存分に受けて海が遊び場になった。一つの蚊帳の中に家族全員が寝る夜、開けっ放しの窓から涼しい風が吹き込んできた。蚊帳への入り方をしくじつて蚊を入れてしまった時の大騒ぎが懐かしい。

秋風が吹き始めるころ、子どもたちが楽しみにしている龍口寺の「お会式」があった。鉦や太鼓に合わせて石段を上る纏(まとい)や万灯の姿が記憶に残っている。現在も続けられている法難会だが、子ども頃のわくわく感に戻ってこない。もう一つの秋の楽しみは遊行寺の開山忌だった。境内にかかるサーカスを見に行くのが待ち遠しかった。道路沿いに並ぶ植木市を親に連れられて見たことも覚えている。

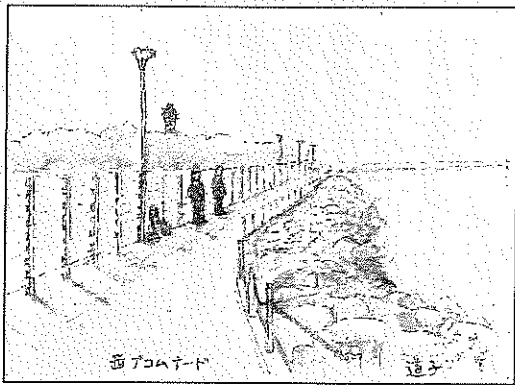
「松風に歴史偲べば」で歌いだす藤沢市歌、藤沢から豊かに茂る松の緑を消すことはできない。昔は冬に数回は雪が降り積もったものだ。「庭先の松を色どるゆきの色」(岩田愛子)「松原の雪の上なる鳥の声」(岩田肇)大正十四年発行の川口小学校同窓会誌には地域の先達が松にかかる雪を詠んだ句を残している。

昭和四十年代に始まった片瀬山の宅地開発も「パーフェクトな街」がうたい文句だった。景観や自然環境「みどり」と太陽と潮風」が大きな魅力になったことは想像に難くない。

令和の今、「みどり」と太陽と潮風のまち藤沢」の生活環境も大きく変わってしまった。豊かな自然に恵まれたふるさと片瀬・江の島の暮らしを大事にしたい。

※片瀬小学校の前身

【冬雲や沖に日の射す相模湾】



片瀬市民図書室からのご案内

電話28-6935

市内に在住、在勤、在学の方ならどなたでも、一人10冊まで2週間借りられます。

返却される場合も、4図書館・11市民図書室のどこでもお返しただけです。返却ポストは図書室にはありませんので、開室時間中にお返し下さい。

〈開室時間〉

火曜日
午前10時～午後5時

《新刊案内》

「老いてこそスマホ」

増田 由紀

「喫茶おじさん」

原田 ひ香

「蘇れ、吉原(吉原裏同心)⑩」

佐伯 泰英

「名画と建造物」

中野 京子

「我が家のおせち」

有元 葉子

「ひこうじようのはたらくくるまたち」

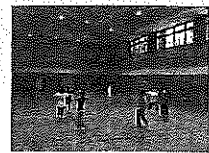
シエリー・ダスキー・リンカー

のぞいてみよう！公民館

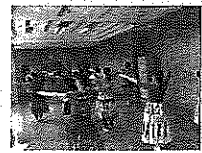
「サークル共催事業」



湘南ウクレレソロサークルさん



湘南フープクラブさん



アメリカエマフラサークルさん



江ノ島太極拳クラブさん

公民館を「利用いただいているサークルの活性化、地域の皆さんの「何か始めたい！」というお気持ちを結びつけられたらと地域とサークルを結ぶ事業が「サークル共催」です。今年度は、ウクレレ・フラ・太極拳・フラフープの皆さんと一緒に開催していただいて、入会された方も多くいらっしゃいました。来年度もご期待ください。

編集後記

記録的な猛暑に続き、秋もかつてない高温の日々が続いています。

10月29日に行われた、60年に一度の「円覚寺洪鐘弁天大祭」が盛大に行われ、江の島囃子の華やかな一行が沿道を埋めた多くの方々の喝采を浴びていました。

新しい年がやってきます。穏やかな安心して暮らせる一年になりますよう心から願うばかりです。(〇)